

板穴開け加工を開始



設備導入 条鋼・鋼管の切断も

ステンレス流通加工の本間鋼業（本社＝東京都墨田区、本間一彦社長）は、ステンレス鋼板やアルミ板向けの穴開け加工と、ステンレス条鋼と鋼管の切断加工を開始した。このほど浦安加工センター（千葉県浦安市）にボール盤、位置決め装置、メタルソーを導入。ステンレス鋼板では切断や曲げに加え、穴開けまで含めた加工を内製化し、条鋼などの斜め切断にも対応することで、加工需要を捕捉する。

対応できる穴開け

は、ドリル穴、皿穴、タップ穴の3種。穴の大きさは最大径で15φまで対応する。近年の

穴開け加工企業の廃業や人手不足、顧客からのニーズなどを受け、

導入を決めた。今年8月から穴開け加工を開始し「想定以上の引き

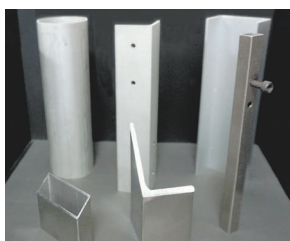
合いが来ている」（本間超常務取締役）という。

ステンレス条鋼の切断は丸棒や鋼管、角形鋼管、アングル、平鋼、C形鋼に対応する。角

形鋼管に穴開け加工を

導入したメタルソー・ボール盤

切断した条鋼や鋼管にも穴開け加工が可能



施すこともできる。

同社加工センターは

CO₂レーザーと3ギ

ワファイバーレーザー、6ギ

基盤し、ステンレス薄

板加工やステンレス形

鋼の切断を主体とする

拠点。2020年に6

ギベンダーを増設し、

ベンダー7基体制としたほか、24年にはロー

穴開け加工はシャ

リング切断を手がける

社員5人が担当する。

本間常務取締役は「設

備投資と並行して、工

場内の多能工化を進め

ていくことで、現場の

モチベーション向上に

つなげたい」とする。